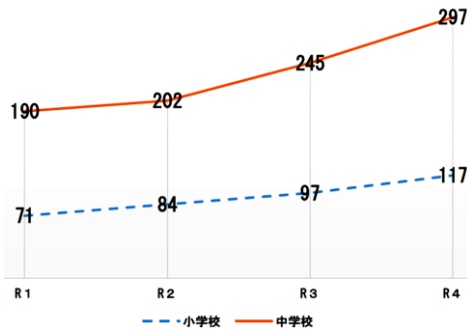


不登校を未然に防ぐ初期対応のポイント

管内の小・中学校において、右のように、年々不登校児童生徒数が増加傾向にあり、生徒指導上の喫緊の課題となっています。魅力ある学校・学級づくりや学習状況に応じた指導と配慮など、不登校対策につながる発達支持的生徒指導の充実とともに、不登校を未然に防ぐ初期対応が重要となります。今号では**初期対応のポイント**を紹介します。



年度	小学校 出現率(人数)	中学校 出現率(人数)
R4	1.06% (117人)	4.99% (297人)
R3	0.86% (97人)	3.98% (245人)
R2	0.68% (84人)	3.12% (202人)
R1	0.60% (71人)	3.01% (190人)

【初期対応のポイント①】 欠席1日目からの働きかけ

- 学校の初期対応方針に沿って、速やかに電話をかける、家庭訪問をする
- できる限り、児童生徒の声を聞く、顔を見る
- 学校の様子や情報、心配していることを伝える

【初期対応のポイント②】 保護者との連携

- 保護者の思いに耳を傾ける
(気になること、心配なこと)
- 学校と保護者との協力関係を結ぶ
- 欠席の要因に応じた支援方法を、共に検討する

学校の初期対応方針の共有

初期対応の遅れから欠席状態が長期化してしまうと、学習の遅れや生活リズムの乱れ等の複数の要因が生じ、回復が困難になることも少なくありません。

たとえ風邪による欠席だとしても、欠席1日目から「気にかけている」というメッセージを伝えるなど、速やかに具体的に動くことが大切です。学校の初期対応方針を全教職員で共有し、すぐ動くことが大事になります。

- 担任単独ではなく、チームで対応する
- スクリーニング会議(アセスメント)を実施する
- いつ、誰が、いつまでに、何を、どのように等、対応の役割を明確にする

【初期対応のポイント③】 チームによる対応

- 教育相談体制(養護教諭等との連携)を整える
- 学習環境(対応場所・指導体制等)を整える
- 欠席の要因に応じた具体策を実行する
- 居心地のよい学級経営に係る体制づくりをする

【初期対応のポイント④】 受入態勢の整備



夏休み明けに児童生徒が安心して登校することができるように、長期休業中における声掛け等、個別支援を行うことも大事になります。

